

平成29年度 図画工作科 夏季実技研修会

実施日：7月27日(木)・28日(金) 会場：川崎市立新城小学校・岡本太郎美術館



今年度は、2日間で延べ246名の方々に参加していただきました。1日目は、造形活動の際、基礎・基本となる「材料と用具・技法を体験するコーナー」を設け、2日目は、実際に題材をとりあげ、研究会テーマである「つくりだす喜びを実感できる授業」について活動を通して研修を行いました。岡本太郎美術館では、太郎の作品鑑賞を生かした作品制作を行いました。また今年度研究会では、受講された先生方の疑問や質問にすぐにお答えできるよう、一目で常任委員とわかるように「Art&Crafts」とデザインしたポロシャツを新調しました。両日、各会場ともに、夏休み明け後の学習に生かすことができる研修内容となりました。

1日目〔材料・用具・技法体験〕

- 【造形遊び】 おいてならべて つんでみて 身近な材料紙コップ。題材名をヒントにどんなことができるか体験しました。
- 【 絵 】 なにでかく 絵の具を使ったモダンテクニックや墨を使った表現を体験しながら研修しました。
- 【 立体 】 芯材ががっちり 芯材の大切さ研修し、軽粘土や液体粘土を使いながら造形活動を行いました。
- 【 工作 】 接合・接着のいろは 接着剤の種類や用途をメッセージボードや飛び出すカードをつくって研修しました。
- 【 鑑賞 】 TAROのKAOを借りちゃおう!(美術館) 太郎さんの作品の「顔」を切り取って、イメージを広げて絵に表しながら鑑賞しました。

『参加者の声』造形遊び

造形遊びを全学年で取り扱うことに初めて知りました。同じ形の紙コップを並べたり、積んだりして形が広がっていく面白さを実感できました。



『参加者の声』立体

つくりたいものに合わせて芯材を変える必要があることを初めて知りました。中でも針金を芯材にするアイデアはなかなか浮かびませんでしたが、授業で活用したいです。



『参加者の声』絵

パステルの使い方を教えてもらい、初めて手にしました。クレヨンや絵の具では出せないやさしい雰囲気を出すことができました。子どもの表現に合わせて伝えていきたいです。



『参加者の声』工作

「のり」のつけ方は悩みの種でした。接合や接着は作品作りで要となる作業だと思います。低学年のうちから「じっくり待つ」ことをきちんと指導していきたいです。



2日目〔題材ごとの実技研修〕

- 【造形遊び】 つなぐんぐん 細長く丸めた新聞紙をつないでどんな形ができるか体験しました。
- 【 絵 】 わたしの大切な風景 新城小学校をモチーフに印象に残る風景を探し、絵の具で表現しました。
- 【 立体 】 自分だけのキラキラタワーをつくらう 光を通しやすい材料を使って、LEDの光の通り方や反射の仕方を考えながら作品作りをしました。
- 【 紙工作 】 ギョギョククリエイター のこぎりの使い方に注意して、音の出る楽器(ギター)づくりに挑戦しました。
- 【 鑑賞 】 TAROのKAOを借りちゃおう!(美術館) 太郎さんの作品の「顔」を切り取って、イメージを広げて絵に表しながら鑑賞しました。

『参加者の声』絵

風景の切り取り方、自分の思いの込め方など手立てや支援を学ぶことができました。実際に取り組んでみて面白いと思いました。ぜひ、やってみてみたいです。



『参加者の声』工作

安全面の注意点や切り方のコツを体験しながら学ぶことができました。ギターづくりでは、作品のイメージをもつ段階で、手立てをうつ必要性や大切さを学びました。



『参加者の声』立体

光をテーマに美しさとは何か考えたことがありませんでしたが、イメージを膨らませるとどんどんアイデアが浮かびました。わくわくして取り組む子ども達が目に浮かびました。



『参加者の声』鑑賞

太郎さんの作品の一部を使ってというびっくりな体験でした。見立てたり、太郎さんの作品の続きを考えたりと“作品を見る”ことに集中できた貴重な時間でした。



『参加者の声』造形遊び

実際に体験して感じたことは、少しずつ活動の幅が広がっていく楽しさがあるのだと気づきました。材料や人が増えるとさらに大きく、心も解放されていきました。